

## 第78回 令和7年9月5日（金）

### 人間の感覚について。

ヒトが短時間とりあえず生きていける温度は－50 度から 50 度までとされています。もちろん長期となれば凍傷などの身体の変化や食料などの問題もあるのでこれよりも狭くなります。

気温は年々上がっています。考えてみれば学者の予測が必ずしも正しいわけではありませんから来年は世界のどこかで長期にわたり 50 度近くになることもあり得ます。砂漠などの乾燥地帯では珍しくない気温かもしれませんが、高温多湿の日本のような国では大変なことになるでしょう。

このような酷暑が続くと、最高気温が 30 度の真夏日でも不思議と救われる気がします。人間の感覚はいい加減なもので、25 度の夏日は春先だとウンザリしますが夏の終わりなら「今の季節が一番いい」と思ってしまいます。

昔なら真夏日が続くとゲンナリしたのですが、いずれ 40 度が当たり前になると 35 度が許せるようになるのかもしれませんが。30 年前は「熱中症」などは聞いたことがなくて、暑い日には「日射病」になるから帽子をかぶるように言われました。いまは日傘が必須アイテムです。

人間は「慣れる」という特殊技能があるので、来年さらに暑い夏が来ても今年より猛暑日が少なければ「今年はマシだ」と思えるかもしれません。しかし残念ながらここ 3 年くらいは 1 年ごとに暑さがパワーアップしているので「マシ」の要素を見つけることができません。

「あるガラス瓶があって、そのなかに 1 分で 2 倍になる菌が入っています。菌がガラス瓶いっぱいになるには 60 分かかります。それではガラス瓶の半分が満たされるのには何分かかりますか？」よくある思考問題です。

答えは 59 分。半分か満タンになるまでには 1 分しかかからないということです。この暑さが人類の限界を超えるのは 1 年に 1 度ずつ暑くなって 20 年後くらいかなと思うかもしれませんが、実はすでにかけっぷちにたたされているのかもしれません。来年急に 50 度がチラホラみられる可能性だってあるのです。

地球温暖化を止めるには数年、もしくは数十年かかります。今年二酸化炭素を減らせば来年は涼しくなるというわけにはいきません。2030 年までに温室効果ガスをどのくらいにするか、各国が話し合い京都議定書やパリ協定が結ばれていますが、これが間に合う保証はどこにもありません。今できることは「すぐに対策をうつこと」、オンリーワンだと思います。